

## 抗議の要請文

9月10日の原子力潜水艦トピーカの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦トピーカは横須賀港から出て行くことを要求する。

米海軍第7艦隊司令官                      フィリップス・ソーヤー中将    殿  
 在日米海軍司令官                      ブライアン・フォート少将    殿  
 米海軍横須賀基地司令官              マイケル・リッチ・ジャレット大佐    殿

神奈川県労働組合総連合  
 新日本婦人の会神奈川県本部  
 神奈川県商工団体連合会  
 神奈川県平和委員会  
 安保廃棄神奈川県統一促進会議  
 原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会  
 原水爆禁止神奈川県協議会

9月10日15時26分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦トピーカが横須賀港に入港した。これで、今年の原子力潜水艦の入港は15回目、原子力艦船の入港は18回目で通算999回となった。

原子力艦船の横須賀入港は、7月以来1ヶ月半ぶりの入港であるが、現在、横須賀港には、原子力空母ロナルド・レーガンが滞港していて、原子力艦船の原子炉3基が存在する事態となっている。このような横須賀港への原子力艦船の入出港が繰り返されることは、横須賀港の安全、原子炉事故の危険性増大から断じて許されない。強く抗議するとともに、原子力空母ロナルド・レーガン、原子力潜水艦トピーカは直ちに横須賀港から出て行くことを要求する。

現在、朝鮮半島をめぐる情勢は、紆余曲折はあるが南北首脳会談や米朝首脳会談の開催などによって朝鮮半島の非核化、平和体制の確立に向けた流れが出ている。この流れは北東アジアの平和と非核化にとって大変重要である。われわれは、この流れがさらに前進することを期待する。

この間、西太平洋やインド洋地域において、米軍と自衛隊が一体となって共同軍事訓練及び軍事演習を行っている。アジア・太平洋地域へ海洋進出を強めている中国などを念頭にした偵察や軍事行動も強まっている。今回の原潜トピーカの横須賀入港はその中での入港と考えられる。軍事的行動によって平和と安全は生まれない。原子力潜水艦の入港は東アジアの平和と安全にとって害はあっても有益性はない。

米政府の2018年の「核態勢の見直し(NPR)」は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を進めている。さらに、トランプ政権は、中距離核戦力(INF)全廃条約の破棄を通告し、未臨界核実験を実施するなど、米口の核軍拡競争が強まっている。われわれはこのような核兵器廃絶に逆行する一連の行動に強く抗議する。今後、日米核密約によって米原子力潜水艦に核兵器を搭載して横須賀基地に入港することが懸念される。日米間の核密約を直ちに破棄し、非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦入港は行わないことを強く要求する。

首都圏は巨大地震発生の可能性が日々強まっている。地震や津波による原子力艦船の原子炉事故も心配である。原子力艦船の原子炉事故による神奈川県民や首都圏住民の放射線被害は断じて許されない。米軍は地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにしていない。

以上の点からも、原子力潜水艦トピーカは直ちに横須賀港から出て行くことを要求する。

横須賀港は米原子力潜水艦の母港ではない。横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射線被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入港はやめること。

原子力空母ロナルド・レーガン、原子力潜水艦トピーカは、横須賀港からただちに出て行くことを強く要求する。

以上